

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0495300022
法人名	(株)ウェルフェアフォレスト
事業所名	グループホーム すだちの里
所在地 (電話番号)	仙台市若林区沖野7-6-30 (電話)022-781-2382

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 10 月 8日

【情報提供票より】(20年9月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8.4 人

(2)建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	RC 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000円 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	名	女性	名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高	92 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	閑上クリニック 伊達歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には農地があり、その一角の住宅地の中にあるこのホームの法人は㈱ウエルフェアフォレストである。グループホーム4ヶ所と有料老人ホーム、それに同敷地内にデイサービスも併設されていて一緒に体操などを行っている。「ゆったりとした環境で入居者の笑顔を引き出せるようなサービスを提供したい」としている。前事業者から引き継いで1年2ヶ月経過した現時点での課題は、業務に負われて入居者とゆっくり過ごす時間が不足している事と職員の入れ替わりが多いことである。管理者は交代したばかりで自己評価のまとめは前管理者が行っており戸惑う項目もあったが、前向きに考えていこうという姿勢を感じたのでサービスの向上を目指せるよう期待したい。ハード面では下水の排水工事に問題があり大雨が降ると逆流する。その度に系列のグループホームに避難しなければいけないということはかなりの負担である。行政の関係機関に早急な対応をお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された4項目のうち市町村との連携は改善された。運営推進会議を活かした取り組みは改善されつつあるが、地域密着型を進める為には運営推進会議の最大限活用が望まれる。馴染みながらのサービス利用・重度化や終末期に向けた方針の共有については引き続き努力していただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価にスタッフ全員で取り組みユニットごとに話し合い、それを管理者がまとめた。改善点として見えてきたことは家族・地域との密接なかかわりができているかという疑問に、もっと地域の人々にも「すだちの里」を知っていただけるように回覧を入れたり、アピールできるよう工夫をしていきたいなど積極的な考えを持てるようになった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はこれまで4回開催されているが、活発に双方向の関係にまでは至っていない。あまり堅苦しく考えずにメンバーの皆さんにはざっくばらんな意見や助言をいただき、テーマによっては知見を有する人や有識者(医師・弁護士・保育所などの先生・警察・消防)にオブザーバーとして参考意見を聞くなどして、概ね2ヶ月に1度の開催となりサービスの向上に繋げられるよう期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員の入れ替えが多いということについては、致し方のない部分もあるが、新職員のお知らせを徹底し、顔写真と名前を貼り出すなどの工夫をお願いしたい。苦情相談機関として公共の相談窓口と第三者委員も設けているが、重要事項にも第三者委員の連絡先と新管理者の差し替えをしたものを記載し、ホーム内にも掲示していただきたい。玄関先に苦情受付箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会したが、現時点では連携が取れていないということである。回覧から情報を得たり、行事に積極的に参加することにより地域に溶け込む工夫をし、地域密着型の意味からも地域とのスムーズな交流は必要である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の「人間性豊かな介護を目指していきます」という理念の他に昨年見直しをして、1丁目「住み慣れた環境作り・楽しい生活を・地域住民の一員として」、2丁目「家庭との絆を深め個性を活かし満たされた生活を送る」それぞれ各ユニットごとに独自の理念もつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆でつくりあげられた理念はサービスの基本として介護現場に活かされている。今後とも毎日理念を確認し、職員間で共有し理念を念頭において支援できるようにしていただきたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、近所にある市民センターでの映画の上映会に参加したり、ボランティアを受け入れたり徐々につながりはできてきているが、地域活動に積極的に参加したり関わりを持つまでにはいたっていない。事業所は地域の一員であるという考えに立ち、地域の活動や住民との交流が望まれる。	○	町内会からの情報を活用して地域の行事に積極的に参加したり、あるいは事業所が地域の社会資源であるという視点に立ち地域の人々と支えあえ合う様な関係になることが望ましい。今後様々な取り組みを工夫して、活発な交流が持てるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意味を理解しており、全員で自己評価に取り組み管理者がまとめ作成した。今回の改善点として家族や地域との密接なかかわりに反省がありこれから努力していきたいということなので期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、家族・町内会会長・民生委員・デイサービスのフロア一長・管理者で構成され、これまで4回開催されている。議題を提供しそれについての意見や話し合いがもたれている。メンバーより避難場所の指定や苦情委員会の立ち上げなどのアドバイスをいただいているが、尚、2ヶ月に一度の開催になるようにしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所運営上での困りごとを相談したり、助言をいただいている。地域包括支援センターにお願いして地域の人々を対象にした認知症の講義を開催するなど関係作りをしている。尚、認知症サポーター養成講座を開催をするなどの活用にも広められれば更に交流が図れると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月発行の「巣立ちの里新聞」と共に近況報告のお便りを毎月郵送している。金銭管理についても報告しているが、確認していただけていない。10月からは確認をしていただく方向であるとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員交代のお知らせが徹底していなかったが、家族に安心感をもっていただけるように対応に気をつけている。事業所の相談受付担当者と公共の相談窓口は公表されている。加えて第三者委員の公表をし、家族が安心して意見や苦情を表せる機会を設け、前向きに受け止めてサービスにつなげていきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係になった頃に職員の離職があり、家族の戸惑いも理解できる場所である。職員は業務日誌や状況簿に個人情報記録し、共有することで少しでも入居者のダメージをなくすように努力している。尚、運営者も異動や離職が必要最小限になるよう一層の努力をしていただきたい。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現段階では内部・外部とも計画的な研修にはなっていないが、全職員での勉強会について話し合っているところである。職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を設け職員の質の確保・向上に向けた育成の努力が必要である。	○	運営者は職員育成の重要性を認識し、職員全体のレベルアップを図り、また、個々のキャリアアップを図るためにも職場内訓練を繰り返したり、積極的・計画的に外部研修参加の機会を設ける努力をし、サービスに活かしていただけるようたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流はあるが、意見交換にまでは至っていない。事業所の質の確保を得るためには他の同業者との交流や連携は不可欠である。尚、近隣の事業所との交流やNPO県グループホーム協議会の加入なども検討していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後は職員や他の入居者との馴染みの関係もできているが、入居時に家族や周りとの協力が得られにくい場合もあって必ずしも納得しての入居になっていないことは今後の課題であるが、家族が本人の生活歴等、サービスに必要な情報を得てできるだけ早く本人がホームに馴染むようにしていただきたい。		
不穏行動に					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、編み物の得意な方が編んだ実用的なコースターを皆で使用していたり、食事の準備や片付け・畑仕事など支えあひながらの日常である。職員は生活の技お料理のコツ・昔ながらの風習などを教えていただき感謝しているという事でいい関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での何気ない会話から意向を探るようにしている。それらを状況簿に記入して職員間で共有し、支援につなげている。意思表示ができていない方についても家族や関係者から情報を得られるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から日頃のかかわりの中での思いや意見を傾聴し、かかりつけ医のアドバイスなどを取り入れている。事業所独自のケアチェック表・包括的支援プログラムに記入し、サービス担当者会議の要点・アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に一度定期的に行われている。会議録に別々に変化を記入しているが、サービス計画書には記入されていないのでひとつの形式にまとめた方が一目瞭然になると思われる。家族に見直しの報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院の支援をしている入居者が、本人の状態が思わしくなくなり重度化した場合にどこまで協力していただけるかこれから確認したいとのことである。墓参りや外泊の希望を実現したり、併設のデイサービスから車を借りてのドライブなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にグループホーム入所中は指定医療機関をかかりつけ医としており、入居と同時に切り替えていただいている。但し、重大な病気を抱えている方については、本人のこれまでのかかりつけ医の受診を支援しており情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	退去に当たっての条件として「医療行為が必要になったら」とし、現段階では看取りはしていない。しかし、医師も含めた早期からの話し合いと関係者間の方針の統一は必要である。また、終末期における医療処置の対応等について成文化された指針を基に話し合っていたきたい。	○	入居者や家族が安心してサービスを利用できるように、現段階ででき得る日常の健康管理や緊急時の対応などについて、方針を統一し意思確認書を作成していただくようお願いしたい。また、重度化や終末期の対応についての項目を重要事項説明書に記載していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの書類はスタッフルームに置いて管理している。さりげなくトイレ誘導の声掛けをしたり、本人にあったような呼びかけになるよう、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮し支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先にならないように気をつけているが、反省することもあるという。しかし、本人のペースでゆったりと過ごすという心がけは常に持ち実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時の準備や片付けをできる方は率先して協働し、「今度のドライブは紅葉見物がいいが何処がいいか」などと入居者同士で会話を楽しみながら食事をしてきた。栄養士の献立により充実した食事になっている。食材は定期的に配達されるが、牛乳など個々の好みのものは近所の馴染みのお店に買いに行ったり、時には外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	プライバシーに配慮しながら個々の自立度にあわせ、希望や声掛けの工夫をして入浴の支援をしている。以前は夜間の入浴支援をしていたが、スタッフが手薄になりがちなこと、リスクに配慮して現在は行われていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の一人ひとりの役割や楽しみごとを職員は良く理解し、編み物・読書・歌や踊り・畑仕事などの支援をしている。料理上手な入居者からたくあんと、来年は梅干の作り方を教わる約束をしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買い物・散歩などに出かけている。外出は季節感を肌で感じたりストレス解消にもなる。何より地域の人々との関係の継続や交流のきっかけになると思われるので、積極的に取り込んでいただけるようお願いしたい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ安全対策の意味で施錠しているが、日中は掛けていない。但し、2丁目ユニットで無断外出が頻繁に見られる方の安全のために、見守りをしっかりしながらセンサーを使用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、避難訓練が行われたばかりである。年2回夜間を想定したものになっている。地域の人々の協力は得られていないが、すぐ前の大家さんが協力的なので、今後力添えていただくようお願いしてみるのも一考であると思われる。非常食は用意されていないので、3日分位の物品の準備をしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立により食事が用意されている。好きなどきに飲めるようにテーブルの上には常時お茶の用意がしてある。更に、水分が不足していると思われるときにはゼリーを摂取していただくようにしている。家族の差し入れも受け入れ、適宜対応して食べていただいている。月2回体重測定をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい日差しが差し込むリビングから見える畑には、丹精込めた茄子やトマトの実がなっていた。訪問した日は大雨だった為、リビングにつづく畳み敷きのコーナーには洗濯ものがたくさん干してあったが、家庭の延長のような生活感があった。入居者の笑顔の写真や行事・外出の時の楽しそうな雰囲気の伝わる写真が飾ってあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、クローゼットとベットがあり、整理整頓されている。使い慣れた家具や生活用品を持ってきていただくように家族に話し理解していただいている。プライバシーも保たれており、入口には好みの暖簾がかけられていた。家族写真が飾られたり、読書の好きな入居者の居室の本箱には愛読書が置かれていた。		